

## 第6回 冬期道路交通確保対策検討委員会

### 議事要旨

#### 1 日時

令和3年2月17日（水） 13:00～15:00

#### 2 場所

中央合同庁舎3号館 1階道路局A会議室（WEB会議）

#### 3 出席者

委員：天野 真志 (株)中央公論新社 取締役社長室長  
石田 東生 筑波大学 名誉教授・特命教授  
片田 敏孝 東京大学大学院情報学環 特任教授  
国崎 信江 (株)危機管理教育研究所 代表  
佐野 可寸志 長岡技術科学大学大学院 教授  
関谷 直也 東京大学大学院情報学環 准教授

#### 4 議事要旨

議事（1）～（4）について事務局より説明し、委員より、

- ・個人の行動変容をどのように促すかが重要である。
- ・中間とりまとめの改訂版をどのように周知するか、効果的な方法を考えてもらいたい。
- ・今年度は大雪となり、滞留に巻き込まれるなど、たいへんな経験をされた方がいるので国民の大雪による被害に対する理解が促進されるのではないかと。今冬状況を振り返り、年度明けからくり返し、国民に周知することが重要である。
- ・ホイール等に傷がつく等の理由により、チェーンを装着できない車種がある。自動車メーカーの理解や意識付けが必要である。
- ・中間とりまとめは、（首都高での立ち往生が発生した）東京などの『非豪雪』における大雪への対応のために検討が始められたと認識。今回の改訂版は『非豪雪地域』も意識した記載が必要ではないか。
- ・『タイムライン』を浸透させるためにも実例を示すことが重要である。
- ・緊急車両を梯団除雪隊に追尾させることは必要だが、地域にとって本当に必要なものを運ぶ車両に対し限定的に運用すべきと考える。
- ・通行止めを行わなかったことが大規模滞留につながったという記載について、それも一因であるが、適切に対処すればこれほど大きな問題は発生しなかったと考えられるため、表現を検討してほしい。

などの意見が出された。

以上